

審査の結果の要旨

氏 名 角倉 英明

提出された学位請求論文「小規模住宅生産者の存在形態に関する研究」は、日本の戸建住宅生産を中心的に担っている工務店等の小規模住宅生産者について、その資源統合機能の実態を明らかにした上で、その独自の発展の方向性を見極めた論文であり、全6章からなっている。

第1章では、研究の背景、目的、既往の関連研究の成果を明らかにしている。具体的には、市場占有率の高さから木造注文住宅を、市場の規模縮小と構造変化の影響を先ず受けると想定されることから小規模住宅生産者を、さらに多様な資源が建築プロジェクトに統合されることによって住宅生産が行われことから資源統合機能を主要な研究対象としていることを述べた後、小規模住宅生産者と資源統合機能の定義を明確にし、双方の実態と今後の発展の方向性を明らかにすることを研究の目的としている。

第2章「小規模住宅生産者の特性」では、広範なアンケート調査等により、小規模住宅生産者の存在形態の基盤となる特性を明らかにしている。具体的には、先ず、創業年代が1960年頃に急増したこと、新築木造戸建住宅市場における占有率が2004年度には43.8%に及んでいること、従業員が少数で分業化が進んでいないこと、自社で標準仕様を設定する事業者が多いこと、必ずしも大工を内部化していないこと、専門工事業者を限定していること等、小規模住宅生産者の特性を明らかにしている。次いで、小規模生産者に対する生活者の意識を明らかにした上で、プロジェクトマネジメント機能、外部資源の活用度合いの高さ、知識・ノウハウの蓄積機能および組織代表者の意思決定による事業運営を小規模住宅生産者の本質的な特性として指摘している。

第3章「小規模住宅生産者の資源統合機能」では、資源統合機能を分類・定義した上で、小規模住宅生産者についてその実態を明らかにしている。先ず、木造注文住宅の生産に必要な資源を部品、専門工事業、設計者、組合せ技術および製造技術の5つに分類し、その統合機能が資源の選定、調達、投入、利用の決定という諸行為により構成されることを論じている。次いで、詳細なアンケート調査に基づき、小規模住宅生産者の具える資源統合機能が、そのプロセスと行為の主体から、4つの類型、すなわち予め事業者によって主要な資源の選定が行われる型、多くは前者と同様であるが施主が一部の資源の選定行為の

主体となる型、予め事業者によって専門工事業の選定と調達が行われている型、多くは前者と同様であるが、一部の資源の利用の決定という行為が追加される型、に分けて捉えられることを明らかにしている。

第4章「小規模住宅生産者の生産活動」では、小規模住宅生産者による木造注文住宅の仕様と活動域の特性を明らかにしている。まず、住宅の仕様について、寒冷地での一部の仕様の違いを除いて、小規模住宅生産者が各部位において用いる主要部品は共通していること、組合せ技術の自社保有率は比較的高く、一方でオリジナル部品の保有率は低いこと、更には社内で同一の主要部品、組合せ技術の使用割合が高く、それぞれには生産する住宅の画一性が高いことを明らかにしている。次いで、活動域について、それが自動車の移動時間によって設定され、移動時間の限度は60分程度であること、事業エリアは景気の動向等によって伸縮することがあるものの、本社を事業拠点とした単一の事業エリアを形成し、その中で木造注文住宅の生産活動を行うことが一般的であることを明らかにしている。

第5章「資源統合機能の高度化と小規模住宅生産者の展開」では、小規模住宅生産者が具える資源統合機能の高度化による生産活動の展開の可能性を明らかにしている。まず、小規模住宅生産者による資源統合機能の高度化を考えた際に、木造注文住宅の差別化を目的とする方向、高度な個別対応性を具える方向、活動域を非限定化する方向のいずれかに展開し得ることを指摘している。その上で、それぞれの方向での展開に必要な資源統合機能の変化等の成立条件を明らかにしている。

第6章「結論」では、前5章で新たに得られた知見に基づき、明らかになった小規模住宅生産者の資源統合機能の特性と、その考えられる展開の方向性を整理し、本論文の結論としている。

以上、本論文は、豊富なアンケート調査及び現地調査を通じて、工務店等の小規模住宅生産者とその生産する木造住宅の実態とその可能性を具体的かつ詳細に明らかにした論文であり、建築学の発展に寄与するところが大きい。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。

最終試験の結果の要旨

論文提出者氏名 角倉英明

審査委員会は、平成 20 年 1 月 15 日に論文提出者に対し、学位請求論文の内容及び専攻分野に関する学術について口頭による試験を行った結果、本人は博士（工学）の学位を受けるに十分な学識と研究を指導する能力を有するものと認め、合格と判定した。

審 査 委 員 会 報 告 書 [課程博士用]

※報告番号	甲 第 号	※授与年月日	平成 年 月 日
※学位記番号	博 工 第 号	研究科名	工 学 系 研 究 科
学位の種類	博 士 (工 学)	専 攻 名	建 築 学 専 攻
ふりがな	すみくら ひであき	生年月日	1977年2月15日生
氏 名	角倉 英明	国 籍	日本
論文題目	小規模住宅生産者の存在形態に関する研究		
主論文の冊数	1 冊		
審 査 委 員 会 委 員	(職 名)	(氏 名)	(印)
	主査 東京大学 教授	松村秀一	
	教授	野城智也	
	准教授	清家剛	
	准教授	腰原幹雄	
	准教授	藤田香織	
論文の内容の要旨	別紙 1		
審査の結果の要旨	別紙 2		
最終試験の結果の要旨	別紙 3		
審 査 委 員 会 の 意 見	審査の結果、博士（工学）の学位を授与できると認める。		

※報告番号は、事務局（学務課）において記入する。

※学位記番号、授与年月日は、研究科委員会の審議後研究科において記入する。